

佳作

将来の私へ

岩手県一関市立室根中学校

3年 遠藤 珠里

私は今、中学3年生だ。俗にいう「受験生」でもある。しかし、まだ行きたい高校が定まっていない。すぐに決まりそうな気配もない。選択肢を広くするために、一応勉強はしっかり取り組んでいる。

私は小さい頃から将来の夢がコロコロ変わる子どもだった。小学校の低学年の時は、花火師さんになってみたかった。小学校5年生の時は学校に来た栄養士さんに憧れて管理栄養士、6年生の時はドラマで人の命を救っている姿を見て、警察官と救急救命士を目指した。中学2年生になってからは起業家、最近では自分の得意な英語を生かした職業に就きたいと考え、外交官にもなりたいと思っている。このように、私は小さい頃から高校はおろか、将来の夢も、長い間一つに定まったことはなかった。そんな私は、よく周りの人間から「軸をもっていない」「将来の夢たらし」などと言われる。自分でも、やりたいことやなりたい姿がすでに決まっていて、それをもとに高校や大学、将来の夢が決まっていたら楽だし、いいなとは思っている。けれど、この世界には魅力的な仕事がありすぎる。そして私は、このように、さまざまな物事に興味をもち、その全てのことに手を出してしまう性格のため、なりたい職業がコロコロ変わってしまう。

しかし、いつまでも「決められない」と言えるわけではない。両親にも「高校はどこに行くの？」と毎日のように聞かれる。母には「将来の夢はまだ決めなくてもいいから、高校は早く決めなさい。」と言われている。高校は小学校や中学校とは違い、義務教育ではない。そのため、行きたい大学や将来に向けて自分が学びたいことや、自分が学ばなければいけない分野についてくわしく学ぶ必要がある。つまり、高校や大学を決めるためには、その前に将来、自分がなりたい職業を決めなければいけない、と私は思う。だからこそ、将来の夢も行きたい高校もコロコロ変わってしまう私は、不安だ。学校で自分の将来について考えたり、友達に行きたい高校を尋ねられたりすることがとても苦手だ。三者面談でも進路についての話をされるとすごく困る。10月までには決めるようにと言われ、焦りだけがどんどんどんどん蓄積されていく。自分でもどうしたら良いか分からない。そんな日々が続いていた。

そしてある日、ふと私が尊敬している鈴木大飛さんの本を読んでいたら「夢は何度だって更新していい。育ての親も、どんなに仲のよい友達も、自分の1%も知らない。自分でも100%は知らないのだから、自分のやりたいことなんて、

他の人にわかるはずがない。だからこそ自分のやりたいことは、過去の経験を振り返ったり、深い自問自答をして見つけるべきだ。」という言葉が目にとまった。これが私の腑に落ちた。今まで私は、自分のことを知ろうとせずに、その場で好きになったものや気になったことに手当たり次第に手を出していただけで、長く続かないのは自己分析が足りていないのだと気づいた。そこで私はさっそく自分をじっくり考えてみた。分かったことは「自分は飽き性で、人前で何かをすることが好き。リーダーとして組織をまとめ、人を驚かせるような、新しいことにチャレンジすることに幸せを感じる」ということだった。

自分の将来について、すごく困るほど悩んでいた時もあった。将来の夢を考えたくもない時もあった。しかし、未来は待ってくれない。少しずつ、少しずつ自分に近づいてきてしまう。そんな時、自己分析をしろという文で私は救われた。自分の性質を理解すると、さまざまな物事が考えやすくなるし、心もスッキリする。悩んでいた時は苦しかったけれど、そこから「自分に合う人生」というものを知ることができて、すごく満足している。

拝啓 3年後の私へ

そろそろ蒸し暑い日がやってきている頃ではないでしょうか。元気に生きていますか？

あなたは今、大学受験を前に、またいろいろな大学で迷っているのではないのでしょうか。自分のしたいことがよく分からず途方に暮れているのかもしれませんが。そこであなたは、中学3年生の時のあなたを思い出してください。そして、自己分析を一から丁寧に行ってください。今度は、ほぼ将来を決めることなので紙に全てを書き出して、その時のあなたの性質を知ってください。

今も昔も、そして未来も、自分のことで悩む時がたくさんあると思います。けれど、その悩みから何かを学び、そして成長することができれば、悩んでいる時は学べるチャンスと思えるようになります。自分の心の声に耳を澄ましてください。応援しています。

中学3年生の私より

敬具